

令和元年5月27日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02225

研究課題名（和文）宗教儀礼を視座とする唱導と縁起の統合的研究 中世宗教空間の復原をめざして

研究課題名（英文）Shodo (Predication Literature) and Engi (Foundation Stories) as seen through the Prism of Ritual - Rebuilding the Religious Spaces of the Middle Ages

研究代表者

阿部 美香 (Abe, Mika)

名古屋大学・人文学研究科・共同研究員

研究者番号：10449093

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中世日本の宗教空間の復原的研究を目指し、人文諸学の研究者と協働して、基礎となる儀礼テキストや縁起絵巻、唱導文献の探訪調査を行い、研究資源化を図るとともに、個々のテキストの解題的研究を通じてそれらが機能する宗教儀礼の文脈に置き直し読み解くことから、中世宗教空間のメカニズムを解き明かし、宗教空間論の研究モデルを文学研究の側から創出し構築するものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究期間内に、国内外に所在する『融通念仏縁起』伝本調査と高精細画像撮影によるアーカイブ化を推進した。安居院唱導文献と儀礼テキストの研究結果は、神奈川県立金沢文庫や人間文化研究機構国文学研究資料館との連携による総合展覧会「列島の祈り」への参画や国内外の学会発表等を通じて社会発信し、地域社会に貢献した。この過程で慈円に関する新出文献を紹介し、歴史思想の研究にとって重要な資料を学界に提供し、それらの研究を国際共同研究として遂行する過程で、女性（宣陽門院）が中世の宗教空間創出に果たした宗教的主体性を問う視座を獲得し、あらたな問題提起と研究手法モデルの創出につながる学術基盤を築くことができた。

研究成果の概要（英文）：This research project strives to recreate the religious space of the Japanese middle ages. It is built on an interdisciplinary workflow, made possible by our extensive collaboration with specialists in various disciplines of the humanities. First, we actively gather data through comprehensive field work. The rituals, painted engi scroll telling stories and predication texts collected this way are then analyzed and explained, in order to re-integrate them within the ritual context in which they acquired their initial significance. This allows us, in turn, to shed new light on the mechanisms at work in the medieval religious space. As a whole, this project strives to establish a new method to analyze such spaces in the context of literary studies.

研究分野：中世宗教文芸

キーワード：唱導文献 融通念仏縁起 宗教空間論 日蔵夢記 本尊釈問答 上素帖 白山平泉寺堂供養表白

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、文学研究の基盤を形づくるものとして、寺院に蓄積された経蔵聖教典籍の調査研究に注目が集まっている。その問題意識は、中世文学会や説話文学会など学界で共有されており、説話文学会創立 50 周年記念シンポジウム(2012)では、三つのパネルの一つを資料学が担った。これと並ぶ、もう一つのパネルで扱った対象が、説話のメディアとしての唱導や絵巻、絵伝などの絵画資料である。日本史、美術史研究者も参画し分野を超えたパネルが構成されるなか、申請者も『融通念仏縁起』について取り上げ報告を担当した。申請者は、すでに重要文化財「称名寺聖教」の目録作成作業や、国立歴史民俗博物館の公募型共同研究「中世における儀礼テキストの総合的研究」への参画、および申請者を代表とする科研(若手研究B)「中世東国宗教と文芸伝承の総合的研究」を通じて、寺院聖教の調査研究に携わり一定の研究蓄積を得ている。その体験とともにパネルにのぞみ、中世を貫く念仏運動を引き起こし大きな文化的達成を遂げた『融通念仏縁起』に着目することで、宗教を対象とする文献研究は、絵画や儀礼という相互に分かちがたいテキストと一体のものとして読み解くべきものであること、ひいてはそれが中世の宗教空間のメカニズムの解明につながる手応えを得た。本研究課題は、そうした問題意識のもとで、中世宗教空間の解明と、そのための研究手法を文学研究の側から構築することを目指すものである。

2. 研究の目的

本研究は、中世社会に大きな影響を与えた唱導テキスト並びに中世に独自の達成を遂げた『融通念仏縁起』などの宗教絵巻、さらには寺社における宗教儀礼を支えた儀礼テキストを焦点に、関わり深い儀礼について実地踏査(フィールドワーク)を行うとともに、それらが機能した当時の文脈に置き直して分析することを通して、中世における宗教空間の生成と展開を復元的に研究することを目的とする。そのために、美術史、歴史学、芸能史など人文諸学の先端研究者と協働して総合的な解明を試み、その成果を国内外へ発信する。

3. 研究の方法

本研究課題を遂行するために、4年にわたる研究期間の間、以下の作業を継続的に実施した。

(1) 寺院聖教の文献調査を通し、特に重要な作品や文献について高精細デジタル撮影を行い、翻刻資料集を作成する。

(2) 文献資料の分析および解題的研究を通して、個別作品の再評価、再解釈を積極的に進め、それらの成果を国内外の学会や講演会、論文、図録等を通して発表し、公開する。

(3) 国内外の歴史学、美術史など人文諸学の先端研究者と連携し、共同研究に基づく連携展示企画に参画、図録の解説作成やワークショップを開催し、研究成果を社会に発信する。加えてそれら先端研究の高度化・可視化による社会発信を目指す。

4. 研究成果

(1) 文献探査では、美術史、歴史学、民俗学研究者との連携を図りつつ、国内外に所在する『融通念仏縁起絵巻』の諸本調査を重点的に進め、米国クリーブランド美術館、米国フリーア美術館、大念仏寺(大阪)、法明寺(大阪)、徳融寺(奈良)、大阪歴史博物館、大阪市立美術館にて作品分析に不可欠な高精細画像の撮影を行い、アーカイブ化の土台となるデータを収集した。また、ハーバード大学美術館にて『因果業鏡図』、聖徳太子二歳像内納入品の探査、神奈川県立金沢文庫や東京大学史料編纂所にて安居院唱導文献や醍醐寺や青蓮院をはじめとする寺院聖教の探査に取り組み、研究基盤となる資料の収集を行った。

(2) 上記の探査を通し、重要文献について翻刻紹介し解題的研究を進めた結果、例えば、北野天神縁起成立の核となる『日蔵夢記』について、すでに失われてしまった鎌倉時代の原本に迫ることができる重要な模写本の存在を確認し、影印とともに紹介することができた。『融通念仏縁起』伝本研究においては、鎌倉時代に遡る現存最古の伝本であるシカゴ美術館、クリーブランド美術館所蔵本の学術的価値を相対化する画期的な模本(暦応模本)の存在を確認し、影印とともに紹介することを得た。その成果は、近世模本研究の重要性を提起するものでもあった。さらに、東京大学史料編纂所の研究資源(史料画像閲覧システム)の活用により、中世の優れた天台僧であり学者として名高い慈円の聖教から、『愚管抄』成立の過程を照らし出す史料「本尊釈問答」を見いだすことができた。全文の翻刻紹介と解題的研究を通して、慈円の密教と歴史思想が一体不可分であることを論証できたことは、当初予期していなかった特筆すべき成果である。本史料は『愚管抄』の位置づけをも変えるインパクトを持ち、学術的価値は特定分野におさまらない。今後、国内外の人文諸学の協働により研究が進められる必要があると考えている。

(3) 得られた研究成果は、国内外の学会で報告し論文等で公開することに加え、神奈川県立金沢文庫や人間文化研究機構国文学研究資料館の連携展示への参画およびその図録執筆、市民向けの講演会(奈良国立博物館、八千代市立郷土資料館ほか)やセミナー(仏国ストラスブール大学でのくずし字セミナーほか)を通して、積極的な社会的還元を努めた。

醍醐寺閻魔堂に構築された冥府空間の研究と、安居院唱導文献の研究、『融通念仏縁起』の研

究は、説話文学会での研究報告等を経て、奈良国立博物館「源信 地獄・極楽への扉」展の公開講座への招待を得、コロンビア大学でのセミナー参加につながるなど一定の評価を重ね、これらの研究を結ぶ鍵となる宣陽門院に焦点を当て宗教的主体性を問い直す研究は、コロンビア大学での国際研究集会の場で高い評価を得ることができた。

安居院唱導文献研究の一環としての『上素帖』所収白山平泉寺落慶供養をめぐる表白の探求は、講演会や新聞報道を通じて白山開山 1300 年記念事業に取り組み地域社会の文化・観光資源に貢献することができた。

二所三島の縁起研究の成果は、それを可視化・高度化するあらたな文化的・芸術的コンテンツ（走湯山秘訣絵巻や伊豆マンダラ）の創出へと展開し、ドイツ・ハイデルベルク大学での国際研究集会などの学会発表や金沢文庫での市民向けワークショップの開催などの段階を経て社会発信を重ね、研究資源の再創造という新モデルを提起するものとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 16 件)

- (1) 阿部美香、「慈円撰述「本尊釈問答」」、『東京大学史料編纂所研究紀要』、査読有、29 号、2019、119-132
- (2) 阿部美香、「大念佛寺所蔵『融通念仏縁起』(暦応模本) 解題および影印と翻刻」、『学苑』査読有、937 号、2019、219-267、<http://id.nii.ac.jp/1203/00006321/>
- (3) 阿部美香、「霊地を結び浄土を望んだ聖たち」、査読無、神奈川県立金沢文庫『顕われた神々』、2018、82-83
- (4) 阿部美香、「国宝称名寺聖教『上素帖』にみる平泉寺堂供養表白について」、『藝林』、査読無、277 号、2017、64-80
- (5) 阿部美香、「徳融寺所蔵『融通大念仏縁起』『融通大念仏亀鐘縁起』 解題と影印・翻刻」、『学苑』、査読有、925 号、2017 年、151-226、<http://id.nii.ac.jp/1203/00006083/>
- (6) 阿部美香、「温泉の神と仏のマテリアリティ-走湯権現像をめぐる」、査読無、『HERITEX』2017、141-152、
- (7) 阿部美香、「醍醐寺焔魔王堂建立の深層 宣陽門院の脱魂体験をめぐる」、『昭和女子大学女性文化研究所紀要』、査読有、44 号、2017、1-15、<http://id.nii.ac.jp/1203/00005881/>
- (8) 関口静雄、岡本夏美、阿部美香、「一枚摺の世界 その小釈の試み(9)」「義賢行者現見感得之図」、『学苑』、査読有、2017、49-57(54-57)、<http://id.nii.ac.jp/1203/00005856/>
- (9) 関口静雄、岡本夏美、阿部美香、「一枚摺の世界 その小釈の試み(7)」「一遍上人熊野成道御影ノ一遍上人御鏡之聖像」、『学苑』、査読有、2016、50-70(67-70)、<http://id.nii.ac.jp/1203/00000310/>
- (10) 阿部美香、「醍醐寺焔魔王堂再考 成賢による冥府儀礼空間の構築」、『説話文学研究』、査読有、51 号、2016、162-172
- (11) 阿部美香、「歴博本『転法輪鈔』「関白家修善」帖と松殿基房」、『国立歴史民俗博物館研究報告』、査読有、188 号、2016、83-97
- (12) 牧野淳司、三好俊徳、筒井早苗、阿部美香、猪瀬千尋、「国立歴史民俗博物館蔵『転法輪鈔』翻刻と解題」、『国立歴史民俗博物館研究報告』、査読有、188 号、2016、147-341(283-313)
- (13) 関口静雄、岡本夏奈、阿部美香、「一枚摺の世界 その小釈の試み(6)」「一遍上人御鏡之聖像」、『学苑』、査読有、905 号、2016、82-93(91-93)、<http://id.nii.ac.jp/1203/00005787/>
- (14) 関口静雄、岡本夏奈、阿部美香、「一枚摺の世界 その小釈の試み(5)」「箱根山牛玉宝印」、『学苑』、査読有、900 号、2015、60-69(67-69)、<http://id.nii.ac.jp/1203/00005713/>
- (15) 関口静雄、岡本夏奈、阿部美香、「一枚摺の世界 その小釈の試み(4)」「箱根権現御神影」、『学苑』、査読有、898 号、2015、55-61(60-61)、<http://id.nii.ac.jp/1203/00005690/>
- (16) 阿部美香、「示水遺影本『日蔵夢記』 解題と影印・翻刻」、『学苑』、査読有、901 号、2015、66-98、<http://id.nii.ac.jp/1203/00005728/>

〔学会発表〕(計 13 件)

- (1) 阿部美香、「女院は越境する 境界の宗教空間を生み出す宣陽門院 The Nyo in Who Crossed Borders: Sen'yomon' in as the Creator of Religious Space at Borders」、コロンビア大学・名古屋大学国際研究集会「Borders, Performance, and Deities (境界、芸能、神仏)、2019
- (2) 阿部美香、「融通念仏縁起絵巻の成立と変奏 フリーア美術館蔵本『融通念仏縁起絵巻』を中心に」、フリーア美術館ワークショップ「フリーア美術館所蔵作品を通じた日本絵ものがたり文化遺産の発見 絵巻を中心にその世界を探求する」2019
- (3) 阿部美香、大高康正、「絵解きで顕わす伊豆・富士山の世界」、神奈川県立金沢文庫特別展「顕われた神々」ワークショップ、2019
- (4) 阿部美香、「閻魔さまからみる地獄と極楽」、八千代市立郷土資料館「八千代の十王図から見た地獄」展講演会、2018
- (5) 阿部美香、「地獄と極楽の宗教空間を探る」第 46 回奈良国立博物館夏季講座「地獄・極楽と浄土信仰の美術」、2017

(6) 阿部美香、「平泉寺の歴史・再発見 国宝称名寺聖教『上素帖』『平泉寺堂供養表白』を読み解く」、白山・平泉寺開山 1300 年記念連続講演会、2017

(7) 阿部美香、「Reading Engaku, An Illustrated Tale of a Monkey Couple That Is Reborn in the Pure Land」、名古屋大学 CHT・コロンビア大学東アジア言語文化学科・ドナルドキーン日本文化センター共催中世日本文化講座シリーズ、2017

(8) 阿部美香、「『二河白道』の絵巻としての『因果業鏡図』The Inga gokyo zu as an Illustrated Scroll of the Two Rivers and the White Pash」、ハーバード大学主催・名古屋大学 CHT 共催国際ワークショップ「The Time-Capsule Prince: The Sedgwick "Shoutoku Taishi At Age Two and the Horizons of Medieval Japanese Religious Art」、2017

(9) 阿部美香、「融通念仏縁 起絵巻における写本と版本 The manuscript and woodblock-printed book of the YuuZuu nenbutsu engi emaki (Handscroll about the origin of the prayer to buddha Amitabha)」、ハイデルベルク大学主催・慶応義塾大学・名古屋大学 CHT 共催 国際研究集会「写本と版本 NEW INSIGHTS INTO MANUSCRIPTS AND PRINTED BOOKS IN EARLY-MODERN JAPAN」、2017

(10) 阿部美香、「国宝称名寺聖教『上素帖』にみる平泉寺堂供養表白について」、藝林会学術研究大会、2016

(11) 阿部美香、「『えんがく』の越境を読み解く」、西尾市岩瀬文庫研究フォーラム「越境する絵ものがたり」 展覧会を楽しむ：越境ワンポイント講座、2016

(12) 阿部美香、「温泉の神と仏のマテリアリティ 走湯権現像をめぐって」、ハイデルベルグ大学・名古屋大学共催国際研究集会「聖なるもの のイメージとマテリアリティ 日本とヨーロッパにおける宗教造型のモノと場」、2016

(13) 阿部美香、「醍醐寺焰魔王堂再考 成賢による冥府儀礼空間の構築」、説話文学会平成 27 年度大会、2015

〔図書〕(計 6 件)

(1) 小林健二、恋田知子、阿部美香ほか、人間文化研究機構 国文学研究資料館、『祈りと救いの中世』、2018、64 (13-15)

(2) 阿部美香、名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター、『女院は越境する 境界の宗教空間を生み出す宣陽門院(コロンビア大学・名古屋大学国際研究集会「境界・芸能・神仏」資料)』、2019、87

(3) 井上卓哉、坂本正仁、阿部美香ほか、富士山かぐや姫ミュージアム、『六所家総合調査だより 特別号 護持院隆光と東泉院精海』、2017、32

(4) 阿部美香、阿部泰郎、石川透ほか、西尾市岩瀬文庫『越境する絵ものがたり』、2016、64 (32-33、50-51)

(5) 小林健二、阿部泰郎、阿部美香ほか、名古屋大学文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター『越境する絵ものがたり』(研究資料集)、2016、123 (79-95)

(6) 福原隆善(監修)、浜田全真、戸田孝重、阿部美香ほか、法藏館、『融通念佛宗における信仰と教義の邂逅 開宗九百年・大通上人三百回御遠忌奉修記念論文集』、2015、754 (243-269)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

(1) 資料集作成

阿部美香『国宝 称名寺聖教『上素帖』資料』(藝林会第十回学術研究大会「白山信仰をめぐる諸問題」資料集)、2016、A4 版 32 頁。

(2) 報道関連情報

『上素帖』所収「白山堂供養表白」の研究成果は、白山開山 1300 年記念の機運と重なり、次のような新聞報道を得た。

福井新聞、2017・1・3 (1 面)「平泉寺記す平安期史料 国宝文献に 2 点発見」

福井新聞、2017・11・7 阿部美香、白山信仰と泰澄-研究最前線(6)「平泉寺堂供養表白の発見 蘇る伽藍復興の歴史」

(3) アウトリーチ活動情報

阿部美香、「走湯山秘訣絵巻」絵解き、名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター主催「絵解きワークショップ in パリ」、仏国イナルコおよび天理文化会館、2015

阿部美香、『走湯山秘訣絵巻』の世界-現代の絵巻再創造』、ルーサイトギャラリー、2015

阿部美香、「温泉の神と仏のマテリアリティ 走湯権現像をめぐって」、伊豆山神社の神さまのひみつのお話第 8 回、2016

阿部美香、「白山さまのひみつ」、伊豆山神社の神さまのひみつのお話第 9 回、2017

阿部美香、くずし字セミナー、日仏大学会館(仏国ストラスブル) 2018

阿部美香、「運慶と東国の宗教世界」、神奈川県立金沢文庫「運慶」展シンポジウム・コメント、2018

阿部美香、「伊豆マンダラ」プレゼンテーション、名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター主催「三禅定絵解きフォーラム」、2018

阿部美香、「伊豆マンダラ」絵解き解説、伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク認定記念シンポジウム、2018

6 . 研究組織

(1)研究分担者

(2)研究協力者

研究協力者氏名：山本 聡美

ローマ字氏名：(YAMAMOTO, Satomi)

研究協力者氏名：大高 康正

ローマ字氏名：(OTAKA, Yasumasa)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。